

## 令和7年度 自己点検・評価結果報告書【附属図書館】

推進責任者：附属図書館長

## 1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

| 自己点検の観点             | 自己点検・評価項目                                                                                                                  | 実施方法                                                                                        | エビデンス                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 判定結果                                                          |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 図書館の利用環境の整備状況及び活用状況 | 学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えられていること。                                                            | ①紙媒体（印刷物）の蔵書数、<br>②電子情報資源の利用可能種類数、<br>③マイクロ資料の所蔵数、<br>④視聴覚資料の所蔵数<br><br>について、確認する。          | 学術情報基盤実態調査（大学図書館編）より<br>※いずれも全館合計の所蔵数<br>①所蔵図書数：1,256,968冊                      ①所蔵雑誌数：21,520種<br>②電子書籍数：88,302冊                      ②電子ジャーナル数：29,801種<br>③マイクロ資料数：63タイトル<br>④視聴覚資料数：684タイトル                                                                                                                                                                                                                                                           | 適切である<br>理由：左記のとおり、相応の資料が備えられていると判断した                         |
|                     | 資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の整理（処理）及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めていること。                                   | ①図書・雑誌受入数、<br>②サービス状況、<br>③図書館の公開、<br>④他機関との連携、<br>⑤電子図書館的機能、<br>⑥機関リポジトリ<br><br>について、確認する。 | 学術情報基盤実態調査（大学図書館編）等より<br>①図書受入数：4,563冊（全館合計）<br>①雑誌受入数：859種（全館合計）<br>②サービス状況 開館数：338日(中央)、342日（医）、365日（薬）<br>②サービス状況 貸出数：49,727冊（全館合計）<br>②サービス状況 総入館者数：316,294人（全館合計・統計より）<br>③図書館の公開：一般市民に開放中、一般市民総入館数：4,651人（全館合計）<br>：一般市民への貸出数：3,068冊<br>④他機関との関係：文献複写・相互貸借の実施 2,256件（全館合計）<br>⑤電子図書館的機能：電子コンテンツ（電子ジャーナル、電子書籍、新聞等）を提供<br>：検索システム（データベース、OPAC等）を提供<br>：利用の場（情報教育用PC等計＝155台・全館合計）を提供<br>⑥機関リポジトリ：年間登録数：412件、総登録数：18,251件<br>：利用数：1,733,369回（ダウンロード数） | 適切である<br>理由：図書・雑誌の継続受入・提供、サービス実施状況、公開状況、他機関との連携状況等により総合的に判断した |
|                     | 機能を十分に発揮させるために必要な<br>①専門的職員<br>②その他の専任の職員<br>が置かれていること                                                                     | 図書館・室の職員数について、確認する。<br><br>（左記項目のとおり）                                                       | 学術情報基盤実態調査（大学図書館編）等より<br>①図書館職員数（司書）：22人<br>①図書館職員数（専任）：37人<br>※業務委託スタッフを9名を含む、アルバイト・TAは含まない                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 適切である<br>理由：従来から人員数・体制等を維持できているため                             |
|                     | 大学の教育研究を促進できるような適当な規模の<br>①閲覧室、 ②レファレンス・ルーム、<br>③整理室、 ④書庫等<br>を備えていること。閲覧室には、学修（学習）及び教員の教育研究のために<br>⑤十分な数の座席<br>を備えるものとする。 | 施設・設備について、確認する。<br><br>（左記項目のとおり）                                                           | 学術情報基盤実態調査（大学図書館編）等より<br>①閲覧室あり（全館）<br>②レファレンスルーム（参考図書コーナー）あり、レファレンス対応あり（全館）<br>③整理室（事務スペース）あり（全館）<br>④書庫あり（全館）<br>⑤座席数：993席（全館合計）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 適切である<br>理由：いずれも自己点検評価項目の条件を満たしているため                          |

2.結果総括

【優れた点】

○ 教員・学生等に対して、充実した図書館サービスを提供（地域貢献含む）

- ・ 図書館全体で年間316,294人の入館者があり、図書合計49,727冊を貸出した
- ・ 図書館オンライン講習会の企画・運営を行い、再視聴可能なMoodleでコンテンツを提供するとともに、リアルタイム配信型の講習会も実施した
- ・ 図書館利用者向け展示を20回開催し、図書館資料を多面的に紹介した
- ・ ダイバーシティ推進室と連携し、性的マイノリティにかかる資料受け入れを行い、中央館内に特設コーナーを設置した
- ・ 学修支援スタッフ（図書館ティーチング・アシスタント）による学習相談・セミナーを実施した
- ・ GLC（グローバルリーダーコース）合格者への図書館サービス提供を継続実施した
- ・ 中学校・高等学校（熊本大学教育学部附属中学校、熊本県立天草高校）の見学受入を行った
- ・ 貴重資料展「小楠に届いた手紙」、公開講演会／永青文庫セミナーを開催し、歴史的貴重資料の公開することで社会貢献を実施し、418名の参加があった
- ・ 熊本大学オープンキャンパス参加者に中央館を開放し、2,374人の来館・見学者があった
- ・ 「熊本大学医学部で行う菊池恵楓園絵画クラブ金陽会作品展 -ハンセン病をここで学ぶ-」を医学系分館で開催し、361名の見学があった
- ・ 第17回熊本大学東光原文学賞を開催し、学生4名を表彰するとともに、作品集を刊行した
- ・ 図書館の広報を目的として、「東光原ニュースレター」を年4回、オンライン・紙面それぞれで発行した

○ 図書館管理運営状況の充実・改善

- ・ 株式会社肥後銀行とネーミングライツ事業契約を締結し、「ひご未来図書館」および「HigoBank Learning Commons」の運用を開始した（R9.3まで）
- ・ ネーミングライツの予算を使用し、中央館南棟外壁面補修や空調設備の補修、消防設備更新等、図書館館外・館内に生じていた不具合等を解消し、安全・快適な図書館環境を提供した
- ・ 国立国会図書館より「レファレンス協同データベース事業」に係る「御礼状」を受領した
- ・ オープンアクセス加速化事業に採択され、学術論文の根拠データ公開システムが完成した
- ・ 公益財団法人田嶋記念大学図書館振興財団 令和6年度助成金に応募し、古文書修復費として、100万円の助成金を獲得した
- ・ 国際規格IIIF対応デジタル・アーカイブシステム「熊本大学附属図書館貴重資料デジタルアーカイブ」の構築を完了し、限定公開を行った
- ・ 「熊本大学学術情報基盤整備に係る基本方針」の一部改正による間接経費の負担割合変更と、OA出版負担金の新設による予算確保を行った
- ・ 購読中の電子ジャーナルについて、限られた予算内でパッケージが継続できるように、Wiley Online LibraryおよびCambridge University Pressの契約を見直した

○ 図書館資産の拡充・活用

- ・ 新着図書4,563冊を整備、また新着電子ブック 237冊を整備し、利用者に提供した
- ・ 附属図書館で保管している貴重資料について、美術館等へ計5回、34点42冊の貸出を行った
- ・ 除却候補図書の再貸出を教員7名に対して合計76冊行い、廃棄図書減少および図書資産の有効活用を行った
- ・ クラウドファンディング事業「記録は宝 -熊本大学「松井家文書」宮本武蔵の記述と新たな発見を未来へ-」による寄附金により、古文書の修復に着手した

○ 研究支援及び附属図書館の国際化に関する取り組み

- ・ オープンアクセス加速化事業に採択され、論文掲載料を全額支援することで、論文14報についてオープンアクセス出版をサポートした
- ・ データベーストライアル（Westlaw Japan・朝日新聞クロスサーチ）を実施し、短期間試用により、利用環境を提供した
- ・ 「熊本大学におけるオープンアクセス推進に係る論文掲載料支援制度」をSpringer Natureのジャーナルに対して開始し、オープンアクセス出版をサポートした
- ・ 図書館ホームページでのAPC割引情報の提供を継続し、研究者（熊本大学）のオープンアクセス出版をサポートした
- ・ データベース（CAS SciFinder）のオンライン利用説明会を実施し、教育研究活動に貢献した
- ・ 図書館の利用に関して、留学生向けの講習会を開催した
- ・ 図書館ホームページの開館に関するお知らせの一部について、英語・中国語併記により広報した

【改善を要する点】

特になし